

大林道路、きんでん、大木工藝

壁面広告素早く切り替え

特別イベントに売り込み

大林道路、きんでん、大木工藝(大津市、大木武彦社長)は共同で、コンクリート壁面などに描かれた企業広告を一時的に隠し、短期間別の広告を掲出するための新工法を開発した。着色シールで既存広告を隠した後の壁面上に新たな広告を転写・ペイント



着色シールで既存広告を隠した後の壁面上に新たな広告を転写・ペイント

壁面上に新たな広告を転写・ペイントするもので、表面を白い塗料で塗った後に新しい広告を描く従来のやり方に対し、広告の切り替え作業の工程短縮と費用の削減が図れる。シールをはがすだけで元通りにできるのも特色だ。サーキット会場などで短期間の特別イベントが開催される時の広告需要などに対応する。

「デジパック」と呼ばれる新工法は、凹凸や局面などの形状、コンクリートやレンガなどの素材に幅広く適用できる。作業手順はまず、既設壁面にリシガン、ローラ、はけを使ってシール(デジパック)を塗布し、既存広告を隠す。その後、短期間掲出するスポンサー広告を転写工かペンキによる塗装で描けば完了する。期間終了後、シールを巻き取るようにはがせば、元通りに復旧できる。

従来のやり方では、塗料で既存壁を塗った後に新しい広告を描き、復旧でも同様の作業を行って

いた。これに対してデジパックは、復旧までの工程を減らすことが可能で、「コストも在来工法に比べて30〜40%削減できる」(有賀真大林道路中部支店エンジニアリング部長)という。

3社はサーキット会場などの壁面を利用した試験施工を踏まえ、本格的な営業活動に着手。野球場、サッカー場などスポーツ関連施設や工事現場の仮設案内板などをターゲットに売り込み、短期間の広告掲載ニーズなどに対応する。大林道路では、年間5000万円程度の施工量を確認している(有賀氏)として、営業を展開する。新技術情報提供システム(NETIS)への登録も準備中だ。